

原爆ドーム

原爆ドームは周囲の街並みとはかけ離れた姿をしています。そしてある意味では、原爆投下前もそうでした。1915年に広島県産業奨励館として建てられた当時、広島にはまだ、伝統的な2階建ての木造建築が広がっていました。その中で、3階建ての補強レンガ造りの構造物に、銅で天井が張られた5階建てのドームがそびえる光景は、目を引くものだったのです。西側に流れる川に面して建てるという設計だったので、自然光を最大限取り入れるために多くの窓が設けられていました。石材とモルタルで外装が施されており、ドームの真下にあった中央階段は、洋館に慣れた来館者にとっても壮観なものだったでしょう。階段は原爆投下で完全に破壊されました。

原爆ドームの設計の中で最も目を引くのは、ひょっとするとその中庭かもしれません。今日でもその輪郭を見て取ることができ、ひしゃげた鉄の螺旋階段がその南側に残存しています。内壁には漆喰が塗られ、当時としては目新しい地下室もいくつかありました。

産業奨励館の堂々たる設計は、広島県の物産を展示・販売促進したり、美術展やその他の大規模催しを開催するという、その目的に適ったものでした。この建物は当初は広島県の所有でしたが、所有権は1953年に広島市に譲渡されました。